



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

知っていますか、顎(あご)の関節のこと

顎関節症治療科 科長 菅沼 岳史

“顎関節症”という疾患は、昨今テレビ番組などで取り上げられ、インターネットで検索すると多くの件数がヒットします。文字通り“顎(あご)を動かすと関節やその周囲に痛みを感じる”疾患です。

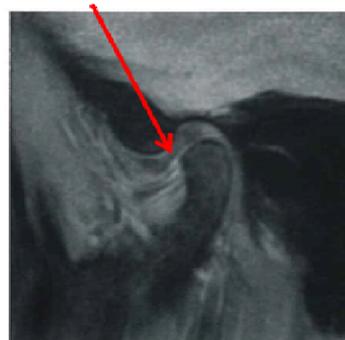
顎関節症になると口を大きく開けることができなくなったり、あごを動かすと痛いので日常生活での食事や会話が困難となります。これを放置しておく、指一本分しか口が開かない状態や慢性的な痛みが生じ、治療が難しくなることもあります。当科はそのような症状をもつ患者さんを治療しています。しかし、こうした症状が出るのは、顎関節が手、腕、肩、足とは異なる特徴をもつ関節であることが大きく関係しています。そこで今回は、顎関節が身体の他の関節とどのように違うのかをお話したいと思います。

顎関節は下のあごの骨にある関節で、他の身体の関節は左右がそれぞれ独立しているのに対して、一つの骨に左右の関節がついている複関節と呼ばれる極めて特殊な構造です。また、蝶つがいのように口が開いたり閉じたりするのではなく、耳の前にある関節が収まっている受け皿の部分から関節の頭の部分が前下方に移動することで大きく口が開く仕組みになっています。耳の前の外側の部分に両手を当てて大きく口を開けるとその部分が膨らみますが、それは関節が前の方に動いているからです。こうした特徴から、たとえば左で食事をする際には、左の関節よりも反対側の右の関節の方が大きく動いています。また、関節の頭の部分は、硬い線維でできた関節円板と呼ばれるクッションで覆われており、口を開ける際

には、このクッションが関節と一緒に前下方に動いていきます。大きく口を開けるとときにカクンと音が鳴るのは、このクッションが何らかの原因で前方にずれてしまったことで起こります。関節が移動する際にそのずれたクッションに一旦引っかかり、カクンと音が鳴ってその引っかかりがとれることで口が大きく開くようになります。一方、指1本ぐらいしか口が開かない状態は、このずれたクッションに関節が引っかかったままで移動できなくなっているのです。

近年の顎関節症の治療は、リハビリトレーニングが主体となります。あごの筋肉のマッサージや開口訓練など個々のメニューで対応して行きます。当科に来院した患者さんには、頭蓋骨の模型やイラストを用いて病状を説明し、今、何が起きているのかを充分にご理解いただき、疾患と正しく向き合えるように専門知識を提供致しております。あごの調子に何らかの不具合を感じましたら、どうぞお気軽にご相談下さい。

関節円板(MRI画像)



顎関節症治療科 紹介

当科は顎関節症、歯ぎしり、口やあごなど顔面領域の痛み(口腔顔面痛)、スポーツマウスガードによる治療を専門的に行っています。あごを動かすとカクカク音がする、咬むとあごが痛い、口を大きく開けられない、噛み合わせに違和感があるなどの症状がある場合は顎関節症の可能性ががあります。また、虫歯や歯周病などの病変がないにも関わらず口やあごに痛みがある場合には口腔顔面痛の可能性もあります。痛みの原因を探ることが重要ですので、丁寧な問診と検査を行います。

診療内容

1. 習癖是正認知行動療法

顎関節症の原因は1つではなく、昼間の食いしばりや頬杖などの癖、片咀嚼、夜間の歯ぎしり、ストレス、楽器演奏、スポーツ、外傷などが挙げられており、これらの原因が増えて限界を超えると発症すると考えられています。特に、仕事をしているとき、パソコンを操作しているとき、考え事をしているときなどに無意識に上下の歯を接触させる癖を持っている患者さんが多く存在します。この癖は顎関節やあごの筋肉に負担を与えますので、習癖を認知してもらい是正する治療が必要です。

2. リハビリトレーニング

口を大きく開けられない場合は、口を開ける練習をしてもらうことで開口障害を改善します。あごの筋肉のストレッチ効果もありますので、筋肉の痛みに対しても有効です。あごの筋肉に痛みがある場合には、いわゆる“こり”が触診できるので、この部位をマッサージすると痛みが軽減することがあります。

3. スプリント療法

顎関節に痛みがある場合には、顎関節への負担を軽減する目的で就寝時にスプリントと呼ばれる装置を装着することがあります。マウスピースやナイトガードとも呼ばれています。スプリントは歯の

すり減りを防止することもできるので、歯ぎしりをする方にも有効です。

4. 薬物療法

顎関節やあごの筋肉の痛みが強い場合や口腔顔面痛には、薬物療法が有効な場合があります。

5. パンピングマニピュレーションおよびトリガーポイント注射

顎関節の痛みが強い場合には顎関節部に局所麻酔薬を注射するパンピングマニピュレーションを、あごの筋肉の痛みが強い場合には筋肉の“こり”の部分に局所麻酔薬を注射するトリガーポイント注射を行うことにより、疼痛軽減を図ります。

6. スポーツマウスガード

外部の衝撃による口の中の損傷の防止を目的として、ラグビーやボクシングなどマウスガードの着用を義務付けるスポーツが増えてきています。マウスガードの装着は顎関節にも影響することがありますので、専門機関での作製をおすすめします。

あごの状態がいつもと違うけど自然に治らないと思ったら、日本顎関節学会の専門医が所属する当科を受診してください。

顎関節症治療科 助教(歯科)

(診療科長補佐) 佐藤 多美代



開口訓練の様子



顎関節症治療科 スタッフ

「歯科病院だより」8月号に引き続きまして、矯正歯科をご紹介させていただきます。8月号では主に、矯正治療の目的と当科を受診した際の一連の流れについてご説明させていただきました。9月号では、矯正治療に用いられる一般的な矯正装置とその種類についてご説明致します。

マルチブラケット装置

永久歯列期(大人の歯が全てはえ揃った歯並び)の治療に使用される最も一般的な矯正装置です。始めにブラケットと呼ばれる四角い小さな装置を歯の表面に取り付け、中心にある溝にワイヤーを通すことで、歯を動かしていきます。歯の動きに応じて、ワイヤーの種類や太さを交換します。通院頻度は約1カ月に1回で、治療期間は個々の患者さんによって異なりますが、約2年～3年を目安に治療を行います。

拡大装置

1. 緩徐拡大装置(可撤式)

装置中央のスクリューを1～2週間に1回のペースで回すことで、歯列に弱い力を与えて歯列の幅を押し広げる装置です。

2. 急速拡大装置(固定式)

装置中央のスクリューを毎日少しずつ回すことにより、約1～3カ月の短期間であごの幅と歯列の幅を広げます。



マルチブラケット装置



緩徐拡大装置

急速拡大装置

顎外固定装置

1. ヘッドギア

上顎骨の成長のコントロール、奥歯を後方へ動かす際に使用する装置です。奥歯を固定する目的として、マルチブラケット装置と併用して使用することもあります。

2. 上顎前方牽引装置

上顎骨の成長を促進させる装置です。反対咬合(受け口)の治療に使用します。

保定装置

リテーナーとも呼ばれ、矯正治療で動かした歯を安定させるために使用する装置です。

先進的な矯正装置

1. 非結紮式ジルコニア製ブラケット(マニューバ)

当科が開発した非結紮式のブラケットです。弱い力で歯を動かすことが可能で、痛みが少ないことが特徴です。

2. アライナー型矯正装置(インビザライン)

当科がアジアで初めて導入した、取り外しができるマウスピースに似た矯正装置です。従来のマルチブラケット装置に比べ、目立たず、歯磨きがしやすいことが特徴です。しかし、1日20時間以上の使用が必要です。



非結紮式ジルコニア製ブラケット



アライナー型矯正装置

矯正治療は検査・診断後、患者さんそれぞれにあった矯正装置を選択し、歯並びや咬み合わせを治療していきます。皆様、どうぞお気軽にご相談下さい。

老人福祉施設の夏祭りに参加してきました

私達は、平成24年より老人福祉施設の夏祭りに参加しております。歯科医師、歯科衛生士、臨床研修歯科医師より参加希望者を募り、ボランティアチームを結成し、「お口の健口体操」など合計3ステージでテンポの良いリズムに乗せた運動を紹介しました。

内容については、入居者や入居者のご家族、施設職員や近隣地域の方々からも大変好評でした。施設職員と共演し、入居者の方々とも一緒に歌って夏祭りは大いに盛り上がりました。

今後ともこのような活動を継続し、地域に貢献していきたいと思っております。

高齢者歯科助教 桑澤 実希



夏祭りの様子

自衛消防訓練審査会で2位！

9月8日(金)田園調布せせらぎ公園で開催された自衛消防訓練審査会に歯科病院女子自衛消防隊が出場し好成績を収めました。



この審査会は田園調布消防署が管内の事業所における自衛消防活動能力の向上を目的として毎年開催しているもので、この田園調布地区では全15事業所24隊が参加し、火災発生時の初動対応、119番通報、消火器・屋内消火栓による消火活動等、一連の自衛消防活動の技術を競い合いました。

メンバーは、指揮者 鈴木恵美(歯科衛生士・課長)、1番員 石川万里子(歯科医師・口腔リハビリテーション科)、2番員 小澤真奈美(歯科医師・連携歯科)の3人。田園調布消防署、および

雪が谷出張所の消防士の方々の指導を受け、7月から審査会に向けて本格的な練習に励んできました。

本番では、落ち着いた態度で的確に隊員への指示、院内放送を行った鈴木隊員、正確な消火栓ホースさばきと放水に成功した石川隊員、よく通る声での報告と消防署への通報を行った小澤隊員の3人が連携し、練習の成果を披露しました。

診療の合間で限られた練習時間の中での2位は、相当な快挙です。出場した3人の隊員のみなさん、本当にお疲れさまでした。

事務課 管理係



編集後記

8月の東京は月の3分の2に雨が観測され、様々な場所でゲリラ豪雨が発生するなど天候不順な毎日でした。9月に入り、日も短くなって少しずつ秋の気配を感じるようになってきましたが、季節の変わり目です。体調など崩さないようご自愛下さい。

(T.S)

